

# 2022 年度 事業報告

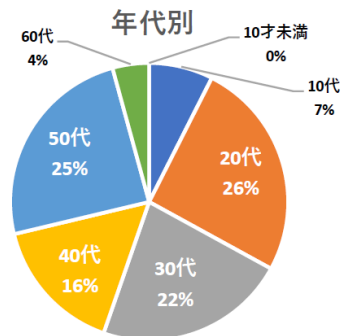
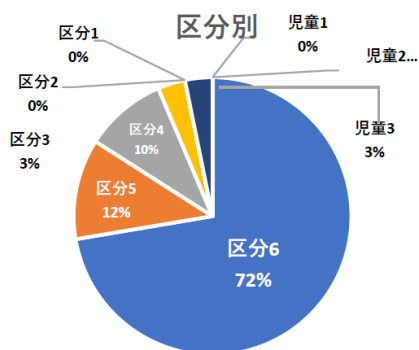
施設名 身体障害者自立体験ホーム なかまっち

## 1 利用状況

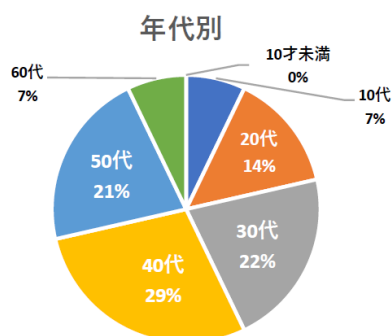
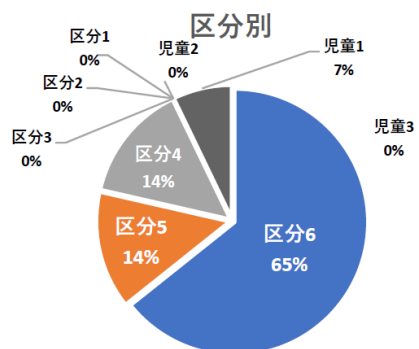
事業名		自立体験事業		短期入所事業		日中ショートステイ事業
		一般入居	短期入居	短期入所	緊急利用	
利用実績	利用定員	3人	2人	2人	1人	1~2人
	延利用者数	5人	63人	348人	20人	306人
	実利用者数	5人	9人	94人	14人	34人
	利用日数	754日	361日	1003日	60日	306日
	利用率	68.9%	49.4%	137.7%	16.5%	83.5%

**短期入所・緊急利用・日中ショートステイ事業における利用者割合  
(障害支援区分別・年代別)**

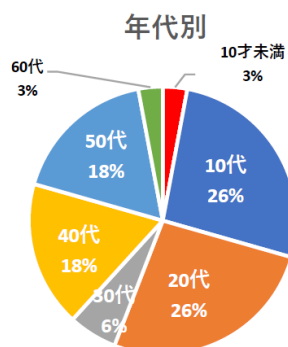
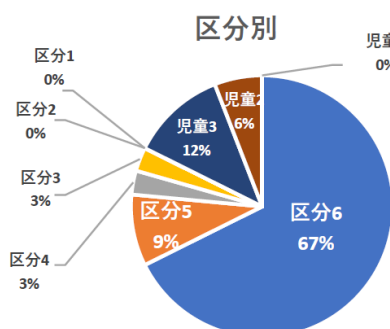
### 短期入所



### 緊急利用



### 日中ショートステイ



## 2 事業実施状況

### (1) 活動・支援の内容

#### ① 自立体験事業（世田谷区独自事業）

一般入居・短期入居という異なる期間を通して、利用者それぞれの地域生活ニーズやライフステージに合った支援を展開した。

##### 【一般入居（1か月以上1年以内）】

5名が利用し、うち1名が新居にて一人暮らしに移行、1名が自宅生活に復帰、残り3名が一人暮らしを目指して、ヘルパーとの生活や居宅探しなどの自立体験プログラムに現在取り組んでいる。

##### 【短期入居（2日以上1か月以内）】

ヘルパーとの生活を、数泊程度の短い期間で数年に亘り継続的に行っている利用者が多い。コロナ禍により利用が落ち込んだが、本年は復調傾向にある。2023年度からの新プログラム移行に伴い、年度途中から世田谷区との協議に加え、利用者や家族、支援者とのミーティングを行う回数が増加した。

#### ② 短期入所（緊急短期入所含む）事業（法内事業）

利用中はマンツーマンで介助者が対応することから、重度かつ細やかな配慮が必要な方の利用が多い。（障害支援区分6の利用者が約75%）緊急短期入所については、世田谷区の地域生活支援拠点として10月1日より登録され、自宅での生活が困難となった障害当事者の受入を行っている。

#### ③ 日中ショートステイ事業（なかまっち自主事業）

レスパイトや両親の仕事などによる利用が多い。短期入所と組み合わせて、より自由度の高い利用を可能にしている。

##### 年間行事

5月…端午の節句（季節食）	12月…クリスマス・大晦日（季節食）
7月…七夕（季節食）	1月…お正月（季節食）
9月…お月見（季節食）	3月…ひな祭り（季節食）
11月…玉川支援ねっとアート交流	

### (2) 地域交流

#### ① 地域住民との交流・連携

コロナ禍前に定期開催していた「まどカフェキッチン／サロン」は、今年度も開催することが出来なかったが、今後の再開に向けロビー改修を行い、交流スペースの充実に取り組んだ。また、近隣幼稚園の外出活動時に施設の一部を供与するなどの協力を行っている。

#### ② 地域の関係機関との連携・交流

玉川エリア自立支援協議会や玉川支援ねっと（玉川地域の障害者施設等のネットワーク）に参加した。特に玉川支援ねっとには中心メンバーとして参画し、各施設の制作したアート作品を他施設や地域のイベントで展示するアート交流の実施に貢献したほか、玉川地域内の障害福祉事業所間での交流ワークショップ開催を通して支援においても連携できる関係性構築に取り組んだ。

#### ③ 積極的な情報発信

ホームページのリニューアルや、行事食などに関するコラムの発信を継続的に行ったことから、事業に対する問い合わせが増加し、採用に結び付いたケースもあるなど、効果が上がってきている。

### (3) 家族・関係機関との連携等

#### ① 家族との連携

短期入所においては、利用毎に支援情報を更新しながら、適切な支援を行えるようにした。また、第三者評価において実施した家族アンケートを通して、事業の在り方や支援内容に対する意見を収集することができた。

#### ② 自立体験室事業におけるケース会議の開催

ケース会議においては「支援方針検討シート」に基づき、支援の現状や方針について共有を行った。また、自立体験室（短期入居）の新プログラム開始に先立ち、利用者・家族とのミーティングを継続して開催した。

#### ③ 関係機関との連携強化

世田谷区に申し入れを行っていた「短期入所連絡会」が実施される運びとなり、他事業者との情報共有を行うことができたほか、地域生活支援拠点への登録にあたり、関係諸機関との連携を確認した。また、全常勤職員がグループウェア「デスクネッツ」を通して、法人内各事業の動向把握をスムーズに行えるようになった。

### (4) ボランティアや実習生の受入れ

コロナ禍により受入は行っていなかったが、2023年度はボランティア1名の受け入れに向け調整中である。

### (5) 危機管理

#### ① 新型コロナウイルス感染症・その他感染症対応

「緊急対応マニュアル（BCP）」「ヘルパー介助マニュアル」「濃厚接触者受け入れ対応マニュアル」などを随時アップデートしながら、感染防護対策や利用者支援を行った。その他にも、ノロウイルス、インフルエンザ等の感染防止に努め、職員への予防接種補助を実施した。

#### ② 防災・減災

当年度より防災設備点検を行う業者の協力を受け、火災を想定した防災訓練や、館内の防災用品・非常誘導器具などの使用訓練を行った。加えて宿直者申し送り表について内容検討を行った。また、不要品の処分などを積極的に行うなど、館内環境の整備に努めた。

#### ③ 防犯

カメラ付きインターホンや防犯カメラを活用し防犯効果を高めながら、夜間における外部からの侵入がないよう施錠確認タイミングを複数回とした。

### (6) 職員研修の実施

#### ① 所内研修

研修動画（サポーターズカレッジ）により、非常勤職員を含む全職員が介護技術等を学び直す機会を確保した。一方で、職員の専門性を「障害」「介護」「制度」「地域」と位置づけ、得た知見を共有し合う「地域生活ラボ」については、時間を確保することが難しく、開催することができなかった。

#### ② 法人全体研修

「障害平等研修」「虐待防止研修」「メンタルヘルス研修」に全常勤職員がオンラインで参加し、障害や虐待防止への理解を深めたほか、法人テーマと自己テーマによる研修動画視聴を行った。

③ **キャリアアップ研修**

個別研修計画に基づき、常勤職員1名が介護職員初任者研修を受講した。また、常勤職員1名が介護福祉士国家資格を取得した。

④ **福祉動向の蓄積と支援への反映**

「支援情報ライブラリー」に国内外の障害支援情報の蓄積を行っている。それら参考文献を通して、自立体験室のプログラムをより体系化しながら充実させるための手引きとしている。

(7) その他

① **事故（アクシデント）…2件**

- ・自立体験室利用者の右足小指骨折
- ・短期入所利用者の頭部打撲

② **ヒヤリハット（インシデント）…27件**

- ・介助方法や服薬内容における誤り。コミュニケーション不足、忘れ物など。

③ **苦情…5件**

- ・介護職員の介助内容によるもの（3件）
- ・利用記録や申し送りの不足によるもの（2件）

3 重点課題と取り組み・成果

① **自立体験室事業の体系化とツール作成**

→ 年度当初に計画していた、「自立体験室支援ハンドブック」については、内容検討を行ったものの、年度内に完成させることはできなかった。この検討を引継ぎ、2023年4月より新プログラムにて運用する自立体験室（短期入居）において、「らしきブック」として運用するべく準備している。また、一般入居においては従前どおり「支援マップ」「支援サマリー」「支援方針検討シート」により、利用者から関係機関まで、情報共有をスムーズに行えるよう運用した。2023年度は上記のツールを、一般入居・短期入所双方にて総合的に活用していく予定である。

② **地域生活支援拠点に対応する緊急利用体制の構築**

→ 世田谷区でも開始された地域生活支援拠点に緊急短期入所として登録し、行政や緊急時バックアップセンター、他事業者と連携を取りながら、受け入れ体制を構築した。一方で、介護人材確保の難しさから、全ての緊急打診に対応できたとは言えない現状にある。引き続き人材確保や、介護体制の在り方についても検討を行っていく。

③ **医療的ケアへの理解促進**

→ 嘱託医と月一回のミーティングを繰り返しながら、実際の利用者受け入れにまつわる注意事項や医療的ケアに関するレクチャーを受けた。また、短期入所連絡会では医療的ケア部会にて、行政の方針について理解を深めたほか、他事業者の対応についても情報共有を行い、見識を深めた。

④ **地域生活につながる生活の場の構築…利用者の役割づくり**

→ スケジュールボードを設置し、全ての利用者に対して入浴時間や夕食の時間などを確認してもらえるようにした。また、一部自立体験室利用者に対して、新聞届けや清掃などの役割を果たしてもらうことができた。それにより、自発性や新たなコミュニケーションが見いだされ、他者との生活を意識するきっかけとなったケースもあった。一方で、その役割が本人にとって納得感のあるものであったかは課題であるため、来年度はプロセスを見直し、交流の場そのものを多く確保することから、その人らしい役割を見出していく予定である。